



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2021年2月9日

JFEホールディングス株式会社

- JFEグループ 2020年度 第3四半期決算
- JFEグループ 2020年度 業績見通し
- 配当について
- セグメント別 業績の状況
 - ・ JFEスチール
 - ・ JFEエンジニアリング
 - ・ JFE商事
- ESG課題への取り組み

JFEグループ
2020年度 第3四半期決算



2020年度 第3四半期決算概要

JFE

上期後半以降の鋼材需要と鋼材市況の回復、収益改善に向けた取り組みの着実な実行により、第3四半期事業利益は531億円（前年同期比+502億円）と大幅に改善した

(億円)	2019年度（実績）		2020年度（実績）		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益	9,202	27,915	8,261	23,184	▲4,731
事業利益	29	520	531	▲611	▲1,131
金融損益	▲31	▲94	▲30	▲94	0
セグメント利益	▲1	426	501	▲706	▲1,132
個別開示項目	—	—	—	—	0
税引前利益	▲1	426	501	▲706	▲1,132
税金費用・非支配持分 帰属当期利益	▲48	▲156	▲140	9	165
親会社の所有者に帰属 する当期利益	▲50	269	360	▲696	▲965

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

2020年度 第3四半期決算概要 セグメント別

JFE

(億円)	2019年度 (実績)		2020年度 (実績)		増減 4-12月累計
	10-12月	4-12月累計	10-12月	4-12月累計	
売上収益					
鉄鋼事業	6,527	20,058	5,802	16,075	▲3,983
エンジニアリング事業	1,258	3,647	1,292	3,512	▲135
商社事業	2,718	8,293	2,249	6,766	▲1,527
調整額	▲1,301	▲4,084	▲1,082	▲3,169	915
合計	9,203	27,915	8,261	23,184	▲4,731
事業利益 (A)	30	520	531	▲611	▲1,131
金融損益 (B)	▲31	▲94	▲30	▲94	0
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲64	113	343	▲1,019	▲1,132
エンジニアリング事業	76	195	109	196	1
商社事業	66	212	65	137	▲75
調整額	▲81	▲96	▲16	▲21	75
合計 (A+B)	▲1	426	501	▲706	▲1,132

JFEグループ 2020年度 業績見通し



2020年度 業績見通し（対前回）

JFE

鉄鋼事業における**需要回復のさらなる進展**や**鋼材市況の大幅改善**に加え、エンジニアリング事業・商社事業の収益改善もあり、年間の事業利益は**+580億円の改善**を見込む

(億円)	前回見通し (11/9) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	31,700	14,922	17,478	32,400	700
事業利益	▲900	▲1,143	823	▲320	580
金融損益	▲150	▲64	▲66	▲130	20
セグメント利益	▲1,050	▲1,207	757	▲450	600
個別開示項目	—	—	220 [※]	220	220
税引前利益	▲1,050	▲1,207	977	▲230	820
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	50	150	▲300	▲150	▲200
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲1,000	▲1,057	677	▲380	620

※JFEエンジニアリング 土地売却益等

2020年度 業績見通し（対前回）セグメント別

JFE

(億円)	前回見通し (11/9) 年間	今回見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	22,000	10,272	12,328	22,600	600
エンジニアリング事業	4,900	2,219	2,681	4,900	0
商社事業	9,300	4,517	4,883	9,400	100
調整額	▲4,500	▲2,086	▲2,414	▲4,500	0
合計	31,700	14,922	17,478	32,400	700
事業利益 (A)	▲900	▲1,143	823	▲320	580
金融損益 (B)	▲150	▲64	▲66	▲130	20
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲1,350	▲1,362	562	▲800	550
エンジニアリング事業	210	87	133	220	10
商社事業	130	72	98	170	40
調整額	▲40	▲4	▲36	▲40	0
合計 (A+B)	▲1,050	▲1,207	757	▲450	600



2020年度 業績見通し（対前年度）

JFE

下期の事業利益は**823億円と大幅に黒字化**、年間では**▲320億円**を見込む

(億円)	2019年度 実績 年間	2020年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益	37,297	14,922	17,478	32,400	▲4,897
事業利益	378	▲1,143	823	▲320	▲698
金融損益	▲125	▲64	▲66	▲130	▲5
セグメント利益	253	▲1,207	757	▲450	▲703
個別開示項目	▲2,388	—	220 [※]	220	2,608
税引前利益	▲2,134	▲1,207	977	▲230	1,904
税金費用・非支配持分帰属当期利益	157	150	▲300	▲150	▲307
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲1,977	▲1,057	677	▲380	1,597

※JFEエンジニアリング 土地売却益等

2020年度 業績見通し（対前年度）セグメント別

JFE

(億円)	2019年度 実績 年間	2020年度見通し			増減 年間
		上期実績	下期見通し	年間	
売上収益					
鉄鋼事業	26,813	10,272	12,328	22,600	▲4,213
エンジニアリング事業	5,122	2,219	2,681	4,900	▲222
商社事業	10,841	4,517	4,883	9,400	▲1,441
調整額	▲5,480	▲2,086	▲2,414	▲4,500	980
合計	37,297	14,922	17,478	32,400	▲4,897
事業利益 (A)	378	▲1,143	823	▲320	▲698
金融損益 (B)	▲125	▲64	▲66	▲130	▲5
セグメント利益					
鉄鋼事業	▲87	▲1,362	562	▲800	▲713
エンジニアリング事業	231	87	133	220	▲11
商社事業	270	72	98	170	▲100
調整額	▲159	▲4	▲36	▲40	119
合計 (A+B)	253	▲1,207	757	▲450	▲703

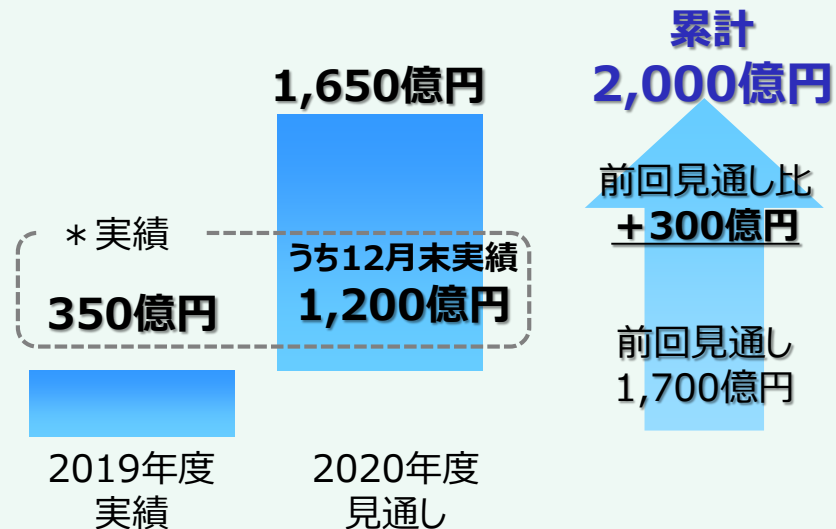
財務健全性維持・収益改善に向けた取り組み状況

◆ JFEグループ全体：資産圧縮

- 政策保有株式や土地の売却※等により
累計2,000億円の資産圧縮
を見込む（対前回見通し比+300億円）

※ JFEエンジニアリング 土地売却 等

- 20年12月までに**累計約1,600億円***
の圧縮を実行



◆ 鉄鋼事業：以下の取り組みを着実に推進

- **国内設備投資圧縮**：意思決定ベースで**1,300億円**を圧縮
- **コスト削減**：減産コストアップ込みで**20年度に1,000億円**を削減
- **販売価格改善**：主原料コスト、諸物価等の価格反映の継続
適正な商品価値・付加価値に基づく価格体系の再構築



キャッシュフローの状況

JFE

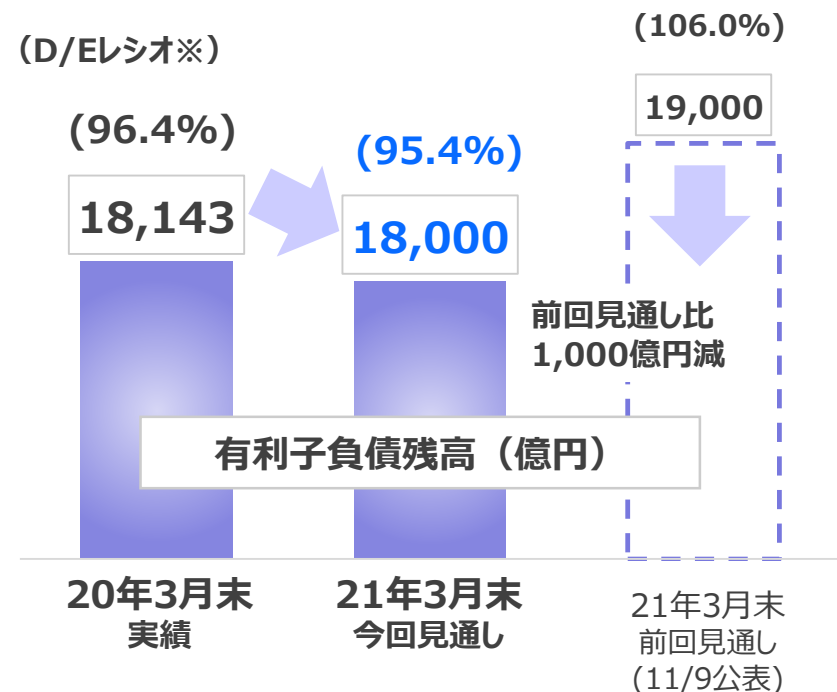
収益の回復や資産圧縮の上積みにもなうキャッシュフロー改善により、
21年3月末の有利子負債残高は前年度末を下回る**1兆8,000億円**を見込む
(D/E 95.4%)

2020年度 連結キャッシュフロー見通し

(億円)

原資	用途
減価償却費 および償却費 2,400	当期純損失 380
資産圧縮 1,650	設備投資 および投融資 3,900
運転収支他 370	有利子負債 140

有利子負債残高とD/Eレシオ



※D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本
但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、
格付機関の評価により資本に算入

配当について



期末の配当については、
鉄鋼事業を中心とした下期の大幅な収益の改善と、
来年度の業績動向を踏まえ、
1株につき10円（年間10円）とする案を
株主総会にお諮りする方針といたしました。

JFEスチール
2020年度 第3四半期決算
および業績見通し

2020年度 第3四半期決算

JFE

	単位	2019年度					2020年度		
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	7-9月	10-12月
売上収益	億円	6,666	6,865	6,527	6,755	26,813	5,087	5,186	5,802
セグメント利益	億円	145	32	▲63	▲201	▲87	▲578	▲784	343
棚卸資産 評価差等除*	億円	225	▲8	87	▲91	213	▲348	▲334	143
単独 粗鋼生産量	万t	700	679	624	670	2,673	479	538	627
連結 粗鋼生産量	万t	736	713	659	700	2,809	509	568	659
単独 鋼材出荷量	万t	585	594	559	609	2,347	459	475	542
鋼材輸出比率 単独・金額ベース	%	39.9	42.1	39.7	44.4	41.5	44.2	40.2	40.3
鋼材平均価格	千円 /t	80.4	79.4	79.6	76.1	78.8	75.3	71.0	73.4
為替レート	円/ドル	110.7	107.6	108.8	109.4	109.1	107.7	105.9	104.8
期末為替レート	円/ドル	107.8	107.9	109.6	108.8	108.8	107.7	105.8	103.5

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

2019年度4-12月

⇒2020年度4-12月 セグメント利益 ▲1,132億円内訳

新型コロナウイルスの影響による上期の数量減や国内外のグループ会社収益の悪化等により前年同期比では大幅な減益となった。

10-12月期は、鋼材需要や市況の回復、収益改善の取り組み等により、343億円の黒字となった。

(億円)

JFEスチール	2019年度 4-12月	2020年度				増減
		4-6月	7-9月	10-12月	4-12月	
セグメント利益	113	▲578	▲784	343	▲1,019	▲1,132

1. コスト

+760

- ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減
- ・ 設備投資効果発現

2. 数量・構成

▲920

- ・ 需要低下に伴う数量減
(粗鋼量 2,003⇒1,644万t ▲359万t)
- ・ 品種構成悪化

3. 販価・原料

▲70

- (鋼材トンあたり：▲500円)
- ・ 原料炭価格は下落も、国内外市況悪化によりスプレッド縮小

4. 棚卸資産評価差等

▲290

- ・ 棚卸資産評価差▲240 (▲170→▲410)
- ・ 原料キャリアオーバー影響▲10 (▲10→▲20)
- ・ 為替換算差▲40(▲10→▲50)

5. その他

▲612

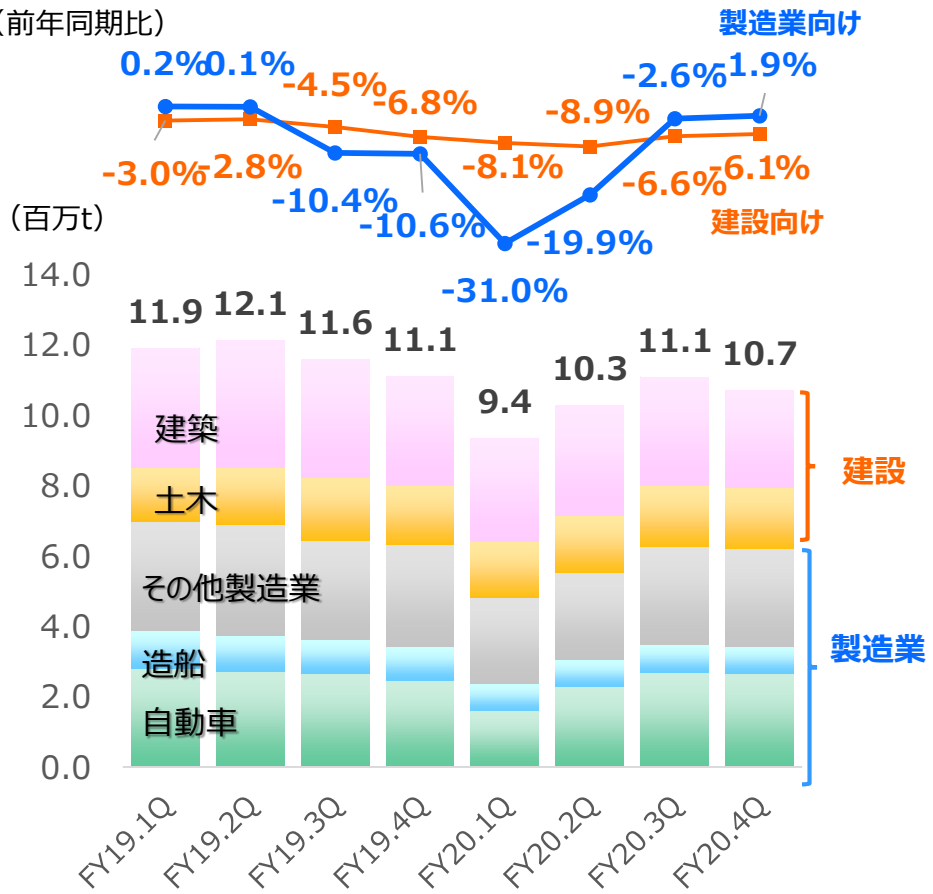
- ・ 国内外グループ会社収益の悪化 他

足下の事業環境認識（国内）



- 需要先の活動水準の持ち直しにより、国内鋼材需要は総じて回復基調が継続
- 自動車生産はすでに前年同期並みの水準まで回復。他製造業向けも段階的な回復を見込む

【国内普通鋼材消費見通し】



分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 国内自動車生産は10月以降は前年比プラスに転じ、完成車輸出も北米を中心に回復 コロナウイルス感染再拡大、世界的な半導体不足などの要因に注視が必要
造船	<ul style="list-style-type: none"> 新造船受注の低迷により手持ち工事量は低位が継続。鋼材需要の回復には時間を要する
その他製造業	<ul style="list-style-type: none"> 建設機械、産業機械をはじめ活動水準は回復傾向、鋼材需要は段階的な回復を見込む
土木	<ul style="list-style-type: none"> 高水準の公共事業関係予算が確保される見通しから、引き続き堅調な鋼材需要を見込む
建築	<ul style="list-style-type: none"> 大型再開発案件や物流倉庫を除いて厳しい環境が継続も、設備投資の回復につれて今後は鋼材需要は緩やかな回復を想定

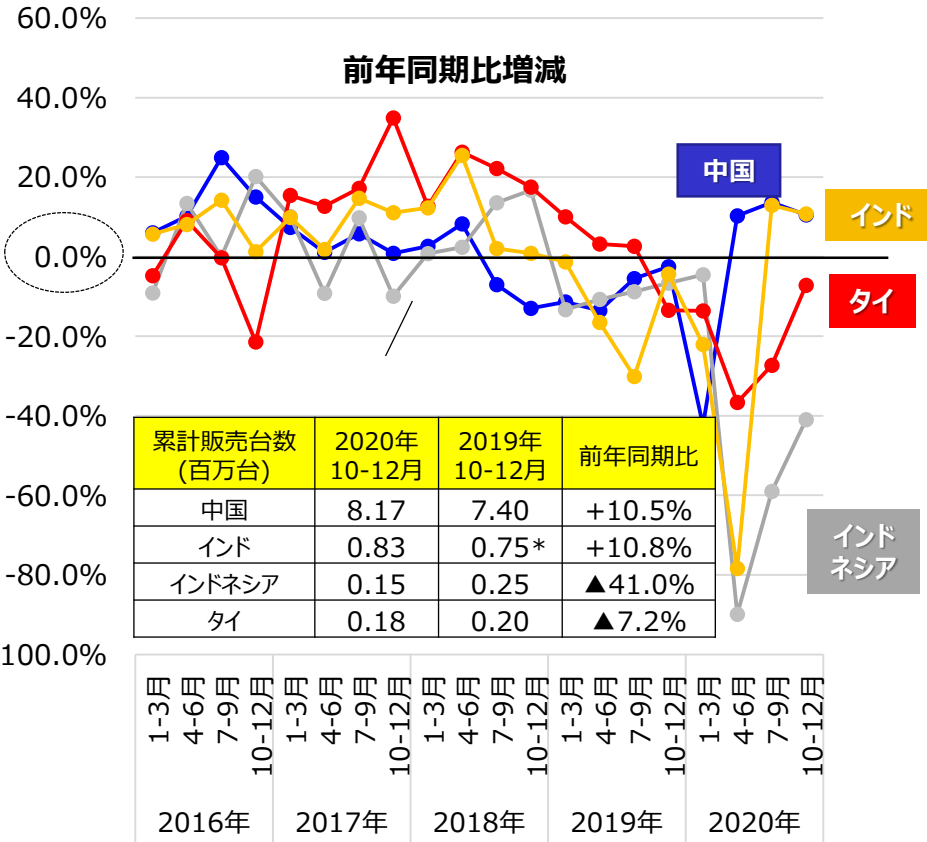
出所：12月22日 経済産業省 鋼材需要見通し（FY20.1-3Q:推定実績,4Q:見通し）



足下の事業環境認識（海外）

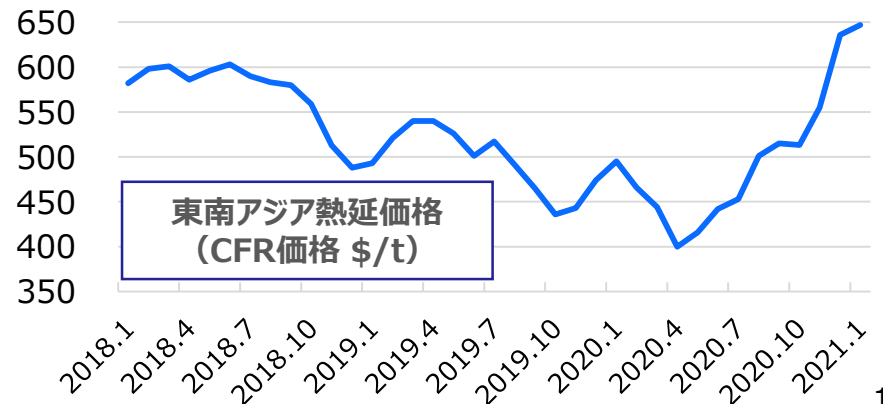
- 分野毎に濃淡はあるものの、**海外鋼材需要は総じて回復基調が継続**
- 需要回復に加え、各国ミルの供給余力が乏しいこともあり、**世界的に需給タイト化し鋼材市況は上伸**

【各国自動車販売台数推移】



*推定値

分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> • 各国、地域で回復基調 • コロナウイルス感染再拡大、世界的な半導体不足などの要因に注視が必要
薄板	<ul style="list-style-type: none"> • 足下は需給タイト化し市況も上伸 • コロナウイルス感染再拡大、各国ミルの生産回復等による市況軟化リスクに注視が必要
造船	<ul style="list-style-type: none"> • 世界的な船腹過剰やコロナ影響等で厳しい環境は継続も、今後段階的な回復を想定
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> • WTI原油価格は緩やかな回復基調も、鋼材需要の回復には時間を要す





業績見通しの前提

JFE

粗鋼生産量見通し

- 国内外の鋼材需要回復の進展により、
20年度の単独粗鋼生産量は2,270万トン程度（下期1,250万トン程度）
を見込む（前回見通し比 **+20万トン**）

メタルスプレッド

- **主原料価格（1-3月）**
 - 鉄鉱石：中国の活発な粗鋼生産等を背景に**前四半期に対し\$10程度上昇**
 - 原料炭：中国以外の地域の堅調な需要や季節要因等を想定し、
前四半期に対し一定程度の価格上昇を見込む
- ⇒ **主原料コストの上昇分の確実かつ早期の価格反映**に取り組む
- **輸出黒皮スプレッド**：輸出鋼材市況の上昇をうけ**下期は回復を想定**
- **国内輸出トータルのスプレッド**は**前回見通し比+230億円の改善**を見込む

JFEスチール 2020年度 業績見通し

JFE

	単位	2019年度 年間 実績	2020年度					2020年度 年間 (前回) 見通し
			上期 実績	下期		年間 見通し		
				10-12月 実績	1-3月 見通し		見通し	
売上収益	億円	26,813	10,272	5,802	6,525	12,328	22,600	22,000
セグメント利益	億円	▲87	▲1,362	343	218	562	▲800	▲1,350
棚卸資産評価差等除き*	億円	213	▲682	143	148	292	▲390	▲900
単独粗鋼生産量	万t	2,673	1,017	627	626	1,253 程度	2,270	2,250 程度
連結粗鋼生産量	万t	2,809	1,077	659	653	1,313 程度	2,390	
単独鋼材出荷量	万t	2,347	934	542	574	1,116 程度	2,050	
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	41.5	42.2	40.3	46	43	43	
鋼材平均価格	千円/t	78.8	73.1	73.4	78	76	75	
為替レート	円/ドル	109.1	106.8	104.8	105	105	106	106 程度

* セグメント利益から、棚卸資産評価差等（棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差）を除いた損益

2020年度 前回見通し⇒今回見通し

セグメント利益 + 550億円内訳

自動車分野を中心とした需要の回復に伴う粗鋼生産量の増加、鋼材市況の回復、グループ会社収益の改善等により、前回公表比で550億円の改善を見込む

JFEスチール	2020年度 前回	2020年度 今回	増減 (億円)
セグメント利益	▲1,350	▲800	+550

1. コスト	±0	
2. 数量・構成	+40	・ 自動車分野を中心とした需要回復に伴う数量増 (粗鋼量 2,250⇒2,270万t +20万t)
3. 販価・原料	+230	(鋼材トンあたり：1,100円) ・ 輸出を中心とした市況好転に伴い、スプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	+40	・ 棚卸資産評価差 +70 (▲450→▲380) ・ 原料キャリアオーバー影響 ▲20 (+40→+20) ・ 為替換算差 ▲10(▲40→▲50)
5. その他	+240	・ 国内外グループ会社収益の改善 他

2020年度 セグメント利益 対前年度 ▲713億円内訳

JFE

1,000億円のコスト削減達成を見込むものの、新型コロナウイルスの影響による上期の数量減、国内外のグループ会社収益の悪化等により、前年度比で悪化を見込む

(億円)

JFEスチール	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減
セグメント利益	▲87	▲800	▲713

1. コスト	+1,000	<ul style="list-style-type: none"> 補修費・労務費を中心とした固定費削減 設備投資効果発現 等
2. 数量・構成	▲1,050	<ul style="list-style-type: none"> 需要低下に伴う数量減 (粗鋼量 2,673⇒2,270万t ▲403万t) 品種構成悪化
3. 販価・原料	±0	
4. 棚卸資産評価差等	▲110	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差▲160 (▲220→▲380) 原料キャリーオーバー影響+90 (▲70→+20) 為替換算差▲40(▲10→▲50)
5. その他	▲553	<ul style="list-style-type: none"> 国内外グループ会社収益の悪化 他

2020年度上期⇒下期

セグメント利益 + 1,924億円内訳

自動車分野を中心とした需要の回復に伴う粗鋼生産量の増加、鋼材市況の回復、上期の棚卸資産評価損の解消等により、下期は562億円の黒字を見込む

(億円)

JFEスチール	2020年度			増減
	上期実績	下期見通し	年間見通し	
セグメント利益	▲1,362	562	▲800	+1,924

1. コスト

+150

- ・ 減産コストアップの縮小
- ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減

2. 数量・構成

+460

- ・ 自動車分野を中心とした需要回復に伴う数量増
(粗鋼量 1,017 ⇒ 1,253万t +236万t)

3. 販価・原料

+180

- (≒鋼材トンあたり：1,600円)
- ・ 輸出を中心とした市況好転に伴い、スプレッド改善

4. 棚卸資産評価差等

+950

- ・ 棚卸資産評価差 + 780 (▲580→+200)
- ・ 原料キャリーオーバー影響 + 140 (▲60→+80)
- ・ 為替換算差 + 30 (▲40→▲10)

5. その他

+184

- ・ 国内外グループ会社収益の改善 他

21年度のさらなる収益改善に向けた取り組み

20年度下期の棚卸資産評価差等を除くセグメント利益：292億円の黒字

- 需要回復の進展により、**単独粗鋼生産量は1,250万 t 程度**
- 粗鋼生産の増加、輸出を中心としたスプレッドの改善、コスト削減等により、下期は黒字に転換
- グループ会社損益は前年度比 7 割程度の水準

以下の取り組みを通じ、21年度に単体黒字化を達成し、確実な収益拡大を図る

◆主な取り組み

□ 最適生産の継続	<ul style="list-style-type: none"> • 需要に応じたコストミニマム操業による最適生産の継続
□ コスト削減の実行	<ul style="list-style-type: none"> • 新規設備投資効果や固定費削減によるコスト削減 (倉敷新連続鑄造機、福山第3コークス炉B団 等)
□ 販売価格の改善	<ul style="list-style-type: none"> • 主原料コストの反映早期化、諸物価上昇等の反映継続、全品種を対象としたエキストラの総点検 等

◆外部環境（変動要素）

- 鋼材需要：新型コロナウイルスの影響や、分野毎の需要回復の動向
- 市況：主原料価格や鋼材市況の今後の動向 等

JFEエンジニアリング 2020年度 業績見通し



2020年度 業績見通し

JFE

損益概況

- コロナ状況下においても**セグメント利益は前年度並みを達成**する見通し。(対前回公表+10億円)

安定的な収益の確保を継続

- **国内の環境関連分野**、および鋼構造関連を中心とした**社会インフラ分野は引き続き堅調**
- 新型コロナウイルスの影響により、一部の海外案件でプロジェクト中断や工期変更等が発生するものの、損益への影響は限定的

(億円)	19年度実績		20年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		20年度 見通し (前回) 年間
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	
受注高	2,235	4,130	2,011	5,000	▲224	870	5,000
売上収益	2,733	5,122	2,681	4,900	▲52	▲222	4,900
セグメント利益	112	231	133	220	21	▲11	210

対前年度

【年間】	・受注高	+870	環境、社会インフラ分野等の公共工事を中心に大型案件の受注増
	・売上収益	▲222	工事量減および新型コロナ影響により減少
	・セグメント利益	▲11	売上収益減により減少

対前回

【年間】	・セグメント利益	+10	コストダウンによる改善
------	----------	-----	-------------

JFE商事 2020年度 業績見通し

2020年度 業績見通し

JFE

損益概況

- ▶ 地域・分野によって活動水準に濃淡はあるものの、下期に入り国内外において**需要が回復**しており、年間セグメント利益は**対前回見通し+40億円**を見込む
 - 国内は、自動車向けを始めとして**全体の活動水準は上期を上回る**
 - 海外は、中国、アセアンの**自動車関連等において需要が回復**、北米では**エネルギー分野の不透明感が残る**ものの、**建材分野は引き続き好調を維持**

業績見通し

(億円)	19年度実績		20年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		20年度見通し (前回)	
	下期	年間	下期	年間	下期	年間	下期	年間
売上収益	5,266	10,841	4,883	9,400	▲383	▲1,441	4,783	9,300
セグメント利益	124	270	98	170	▲26	▲100	58	130

【年間見通し】

(対前年度) 下期に入り、自動車等の活動水準回復に伴い、収益は大幅に回復するものの、上期における新型コロナウイルスの影響による国内外鋼材需要の落ち込みが大きく、減収減益の見込み。

(対前回) 下期以降、自動車を始めとして想定以上に国内外の需要回復が見られたことから、セグメント利益は170億円(対前回見通し+40億円)を見込む。

ESG課題への取り組み

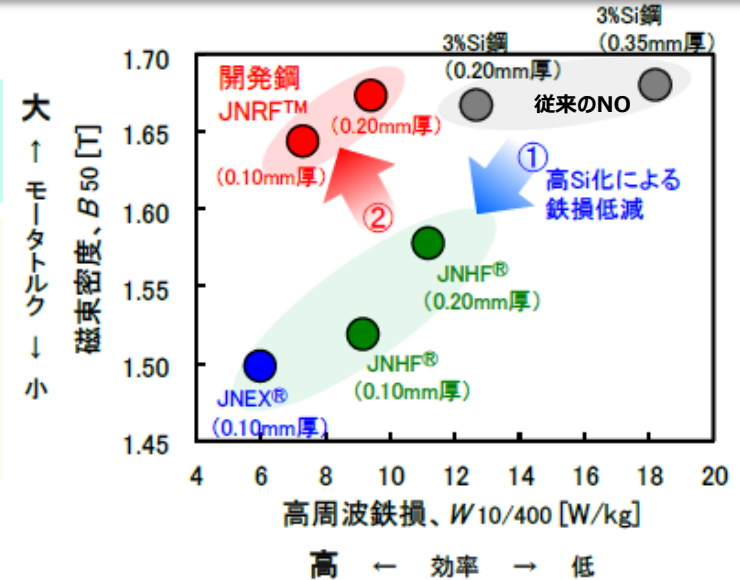
JFEグループのエコプロダクト（環境配慮型商品の開発）

環境配慮型商品の開発を通して環境社会実現に貢献

（20年12月3日リリース）

高速モータ用Si傾斜磁性材料『JNRF™』を開発 ～高周波低鉄損と高磁束密度を両立した電磁鋼板～

- 従来の無方向性電磁鋼板（3%Si鋼板）並みの磁束密度を維持しつつ、**モーターの大幅な高効率化（省エネ）を可能にする電磁鋼板**を開発
- 電気自動車の駆動モータ、家電製品用モータ、ドローンモータなど、**小型化・高速化が進展するモータ分野での適用拡大**を目指す



（20年12月23日リリース）

冷間プレス用1470MPa級高張力冷延鋼板が自動車の車体骨格部品に初採用

<従来1.5GPa級高張力鋼板に用いていた熱間プレス工法>

- 高温への加熱が必要→プレスに必要な工程数増加
- 単位時間あたりにプレス可能な台数が減少
- **製造コストに改善の余地あり**

<冷間プレス用1.5GPa級高張力鋼板の効果>

- 1310Mpa級と同等の冷間プレス性の実現により、**プレス工程の低コスト化・省エネに貢献**
- 1.5GPa級でも**特に高い降伏強度と耐遅れ破壊特性**を両立

今後も高性能な高張力鋼板の開発に努め、安全で環境にやさしい自動車の開発に寄与し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

JFEグループのエコソリューション（環境配慮型技術の開発）

JFE

中国でオイルスラッジ処理の実証事業を開始

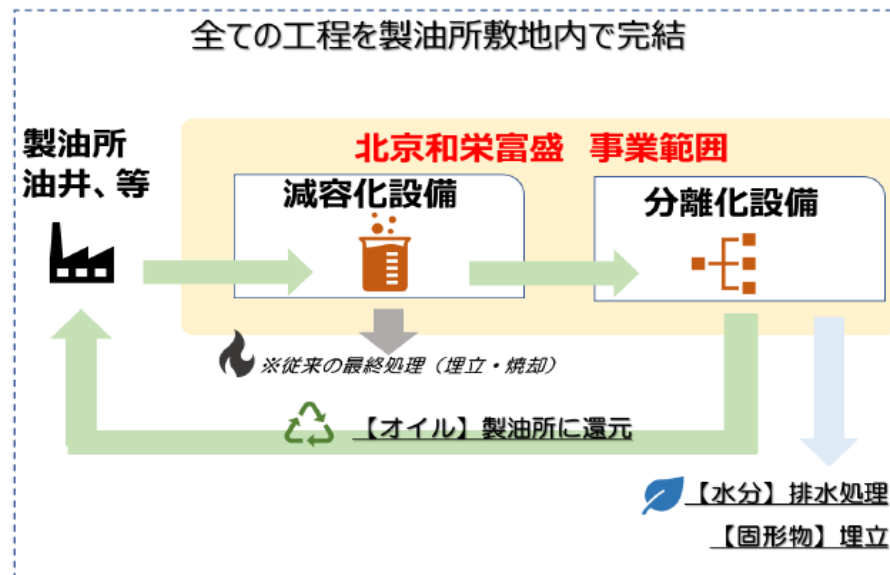
(20年12月24日リリース)

- 中国ではオイルスラッジ*は、従来は**排出業者による貯蔵・埋立・廃棄物として焼却処理**
- 近年の**環境に配慮した処理方法のニーズ**の高まり
- 今回の事業により、オイルスラッジを「**オイル**」「**水分**」「**固形物**」に分離し、**無害化**
- 焼却処理した際に比べて**CO₂排出量を削減**し、**コストを安価に抑える**ことも可能
- JFEエンジニアリングは、日本で培った**廃棄物処理事業ノウハウ**を生かしてこの事業に参加

今後も新しいビジネスモデルを探索し、世界各地のニーズを形にすることでSDGsに則した循環型社会の実現に貢献してまいります。

会社名	北京和栄富盛环保科技有限公司
設立	2021年2月（登記予定）
資本金	3,000万元
出資者	北京和栄 66% JFEエンジニアリング 17% 東京センチュリー 17%
事業概要	オイルスラッジの処理事業 オイルスラッジ処理設備の技術開発及び販売

*オイルスラッジ：石油タンクなどの底部に滞積する油分等、製油所から排出される沈殿物。



JFEグループのエコソリューション（環境配慮型技術の開発）

JFE

清掃工場の排ガスからCO₂を回収する実証実験を開始

(21年1月20日リリース)

～ CO₂回収提案の標準化（JFE CCU-Ready）～

- 清掃工場の排ガスからCO₂を回収し、利用する**CCU(Carbon Capture and Utilization 二酸化炭素回収利用)プロセス**の実証実験を開始
- CO₂回収技術に加え、**CO₂の利用技術(ケミカルリサイクル)**についても種々の実証実験を行う予定

- 清掃工場のEPCでは、すでに超高効率発電や全自動化などによる**温暖化ガス排出抑制技術を確立**
- 今後、JFEエンジニアリングが建設する清掃工場は**CCU-Ready Plant (CCU適用準備施設)**を標準とし、さらに地域の状況に合わせ適切な回収CO₂の活用法を提案するなど、**低炭素社会に貢献**

CO₂有効利用システムの全体フロー図（イメージ）

清掃工場（クリーンプラザふじみ*1）



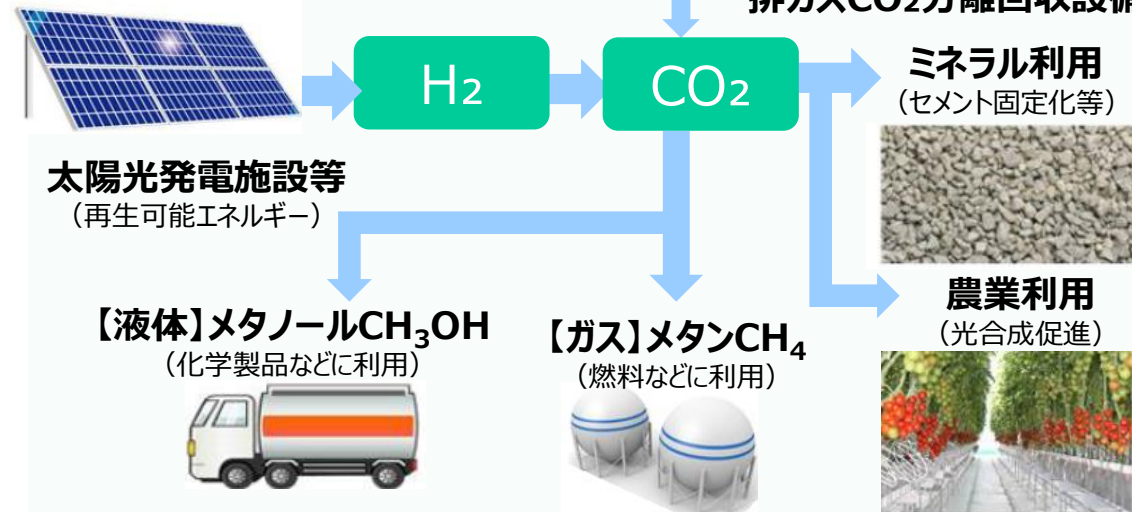
ネガティブカーボンが達成可能*2

CCU実証実験内容



排ガス

排ガスCO₂分離回収設備



*1)東京都三鷹市と調布市が設立した一部事務組合であるふじみ衛生組合が整備した清掃工場で、JFEエンジニアリングがEPCを担当し、20年間の運営業務も担っている

*2)回収技術を清掃工場に適用することで、ごみが含有するバイオマス分を合わせ、CO₂排出量を回収量が上回る「ネガティブカーボン」を達成可能となる

JFEグループのエコソリューション（環境配慮型技術の開発）

JFE

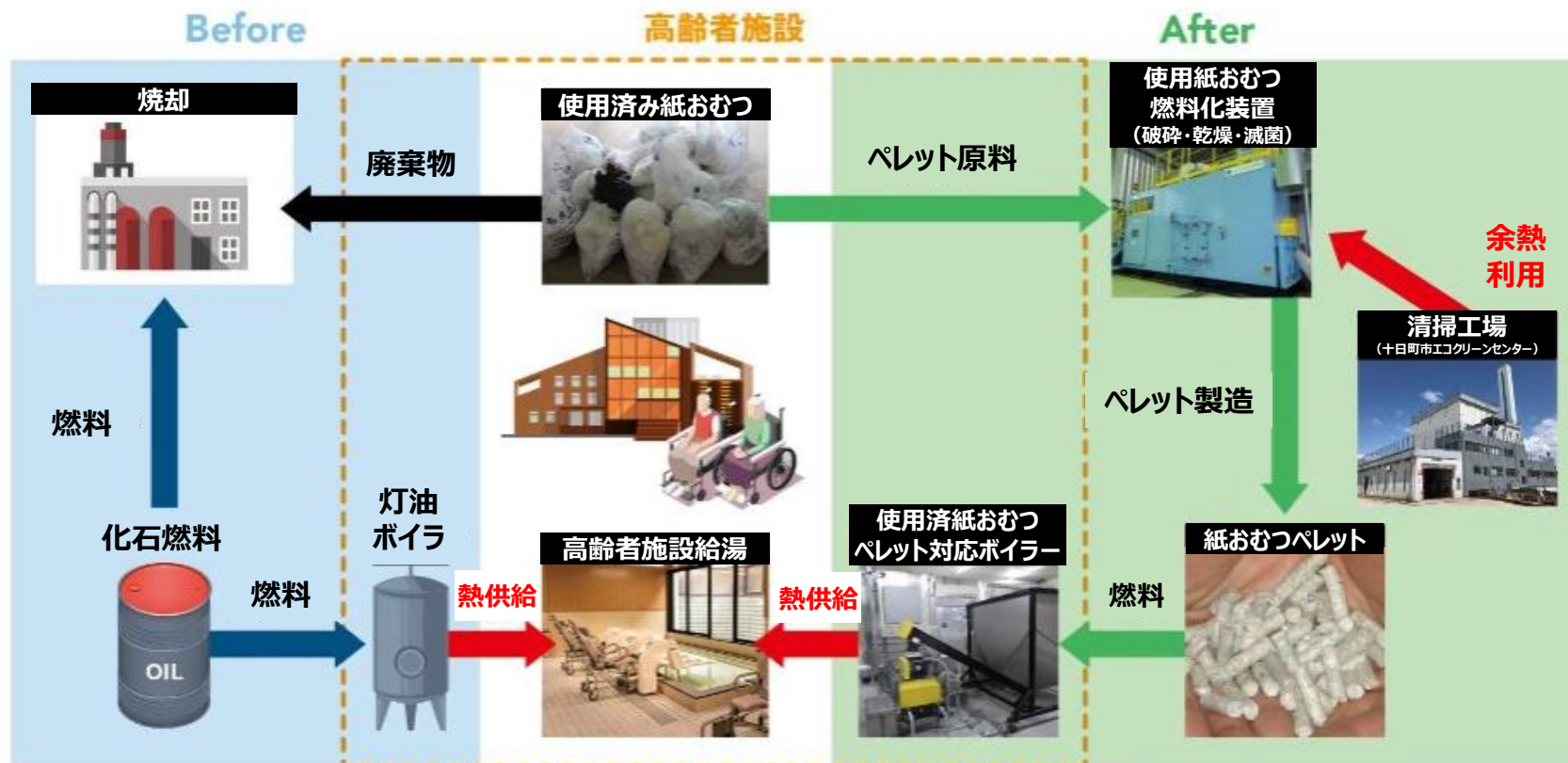
使用済み紙おむつの燃料化実証設備竣工

(20年12月23日リリース)

現在、一般廃棄物重量の約4%を占め、高齢化の進展とともにさらに増加が見込まれる使用済み紙おむつを、**焼却処理せず、燃料化するなどのリサイクル**を行う

<期待できる効果>

- 可燃ごみの排出量削減
- 焼却灰の埋立量やCO₂排出量の削減
- エネルギーの地産地消



ジャパン マリンユナイテッド 今治造船(株)との資本業務提携について



今治造船(株)と共同出資の合弁会社「日本シップヤード株式会社」が発足

資本業務提携の概要

- JMUが新たに発行する**普通株式の今治造船(株)による引受け**
(引き受け後の株主構成 JFEHD(株)35%、(株)IHI35%、今治造船(株)30%)
- **営業および設計等を共同で実施する合弁会社の設立**
- 仕様統一推進による**マスプロダクト効果の追求**
- ブロック、大物艀装品などの**製造所集約などの生産協力**

合弁会社の概要

商号	日本シップヤード株式会社
代表者	代表取締役社長 前田明德 (JMU) 代表取締役副社長 檜垣清志 (今治造船)
事業内容	LNG船を除くすべての一般商船・海洋浮体構造物の設計、販売等
資本金	1億円
出資比率	今治造船 51%、JMU 49%
従業員数	約510名
設立時期	2021年1月1日

第7次中期経営計画について



第7次中期経営計画について

JFE

◆公表時期：2021年5月

2021年3月期決算の公表と合わせ発表予定

◆策定対象期間：

2021年度から鉄鋼事業の構造改革成果が
フルに発現する2024年度までの4年間で
7次中期経営計画として策定

參考資料

主な財務関連データ

JFE
【日本基準】

【IFRS】

見直し

年度	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)							
経常利益	522	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	2,606	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	6.1倍	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)							
親会社株主に帰属する当期純利益	71.2	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	20	40	60	30	30	80	95
配当性向	28.1%	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

年度	'18	'19	'20
【主要財務指標】(億円、%、倍)			
事業利益	2,320	378	▲320
EBITDA ※1	4,282	2,694	2,080
ROS ※2	6.0%	1.0%	▲1.0%
ROE ※3	8.6%	▲11.1%	▲2.3%
ROA ※4	5.0%	0.8%	▲0.7%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,143	18,000
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍	8.7倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%	95.4%
【1株当たり情報】(円/株、%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4	▲66
配当金	95	20	10
配当性向	33.5%	-	-

【日本基準】

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費

※2 ROS: 経常利益/売上高

※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本

※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産

※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費

※2 ROS: 事業利益/売上収益

※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分

※4 ROA: 事業利益/資産合計

※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

2020年度7-9月

⇒2020年度10-12月 セグメント利益 +1,127億円内訳



JFEスチール	2020年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	▲578	▲784	343	218	▲800	+1,127

1. コスト

±0

2. 数量・構成

+200

- ・ 需要回復に伴う数量増
(粗鋼量 538⇒627万t +89万t)

3. 販価・原料

+110

- (鋼材トンあたり：2,000円)
- ・ 鉄鉱石価格は上昇も、海外市況好転によりスプレッド拡大

4. 棚卸資産評価差等

+650

- ・ 棚卸資産評価差 +540 (▲370→+170)
- ・ 原料キャリーオーバー影響 +100 (▲60→+40)
- ・ 為替換算差 +10 (▲20→▲10)

5. その他

+167

- ・ 国内外グループ会社収益の改善 他

2020年度10-12月

⇒2020年度1-3月 セグメント利益 ▲125億円内訳

JFE

JFEスチール	2020年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 見通し	年間 見通し	
セグメント利益	▲578	▲784	343	218	▲800	▲125

1. コスト

±0

2. 数量・構成

±0

3. 販価・原料

+80

(鋼材トンあたり：1,400円)

・鉄鉱石価格は上昇も、国内外市況好転によりスプレッド拡大

4. 棚卸資産評価差等

▲130

・棚卸資産評価差▲140 (+170→+30)

・原料キャリーオーバー影響±0 (+40→+40)

・為替換算差+10(▲10→±0)

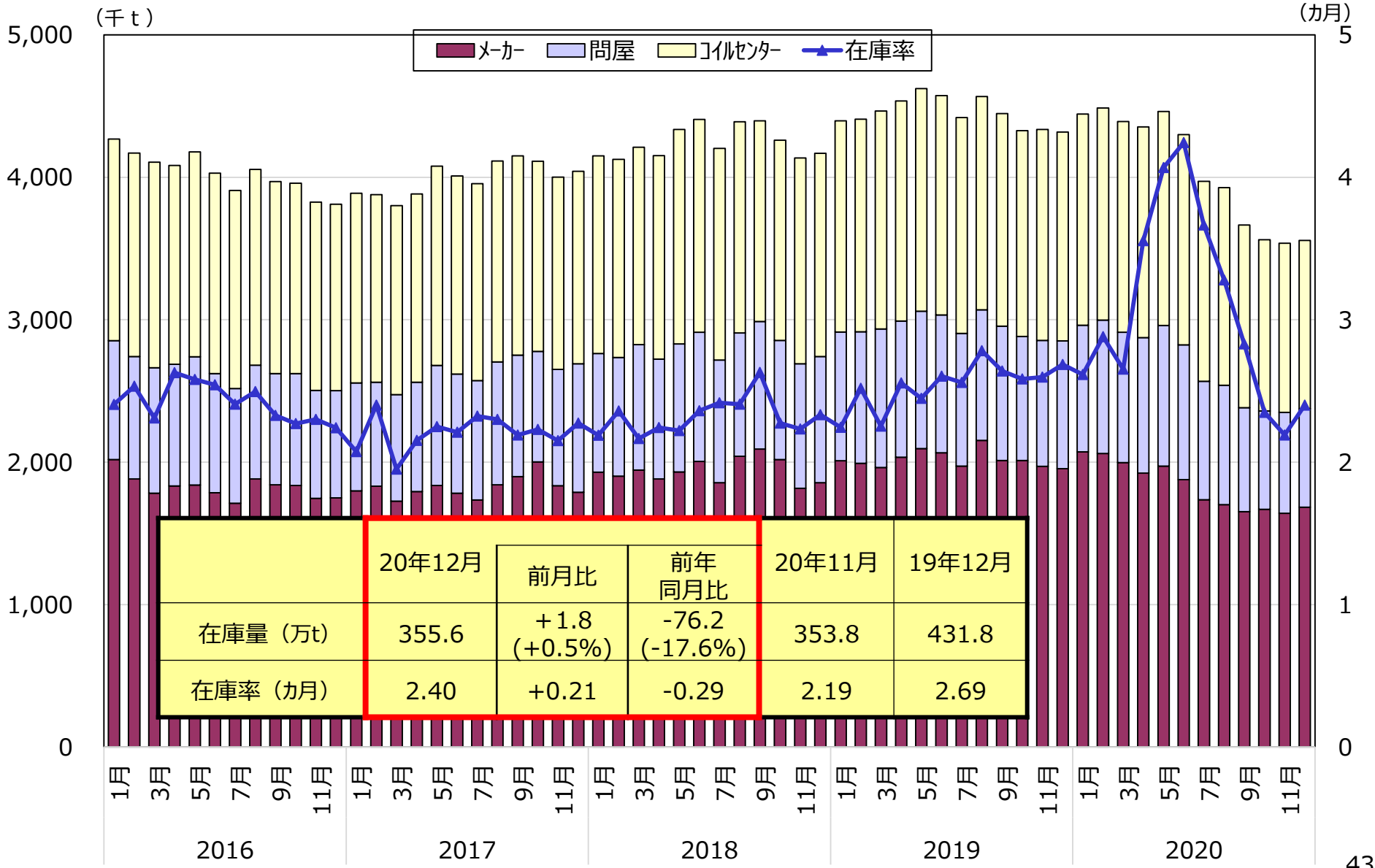
5. その他

▲75

・スクラップ価格上昇、償却費、経費 他

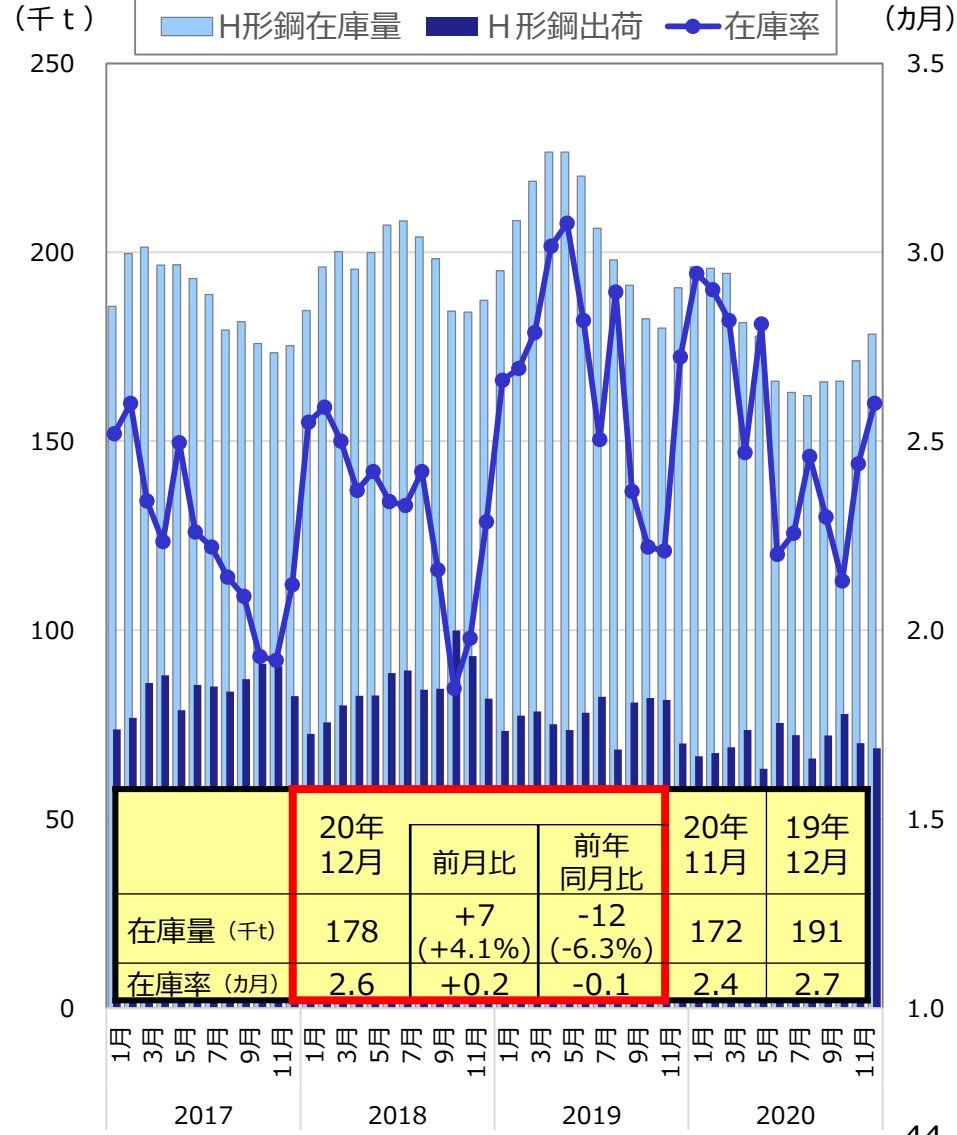
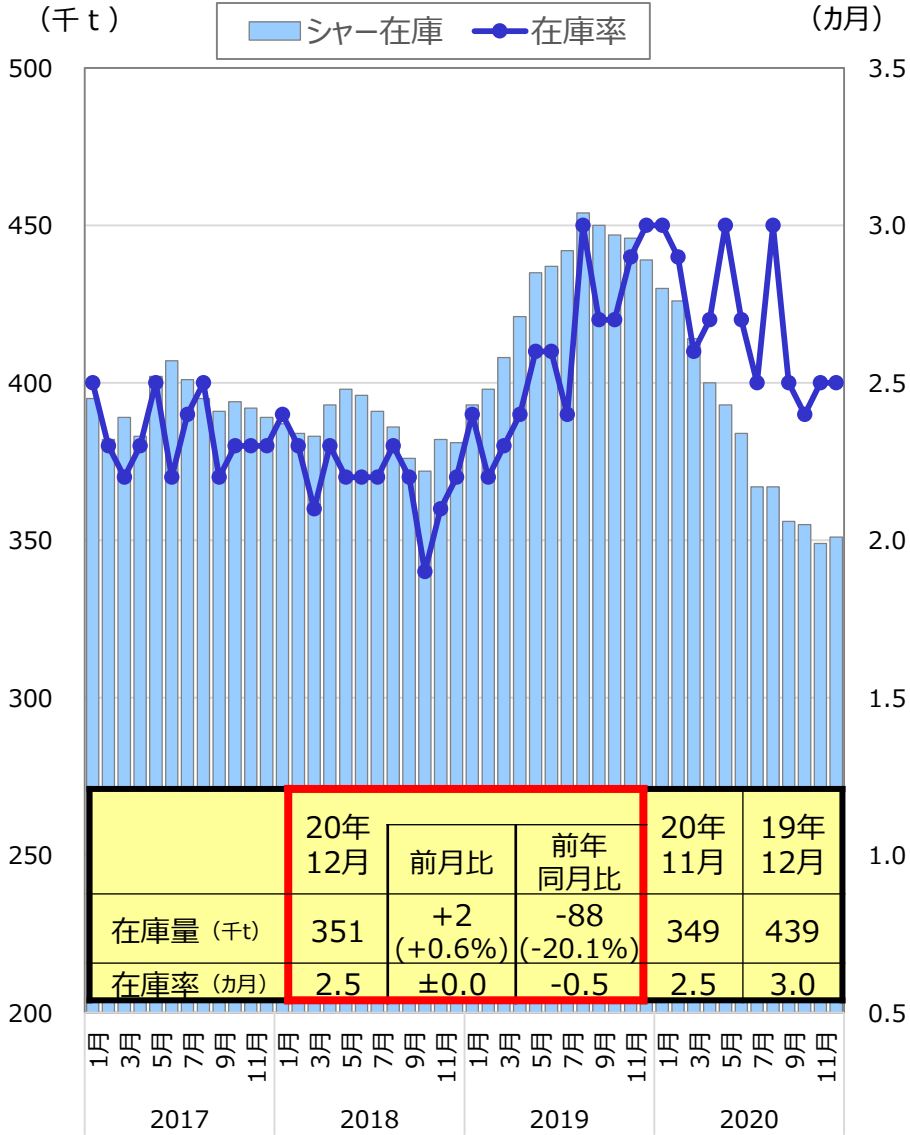
国内販売環境

薄板 3 品在庫



国内販売環境

厚板シャー・H形鋼在庫

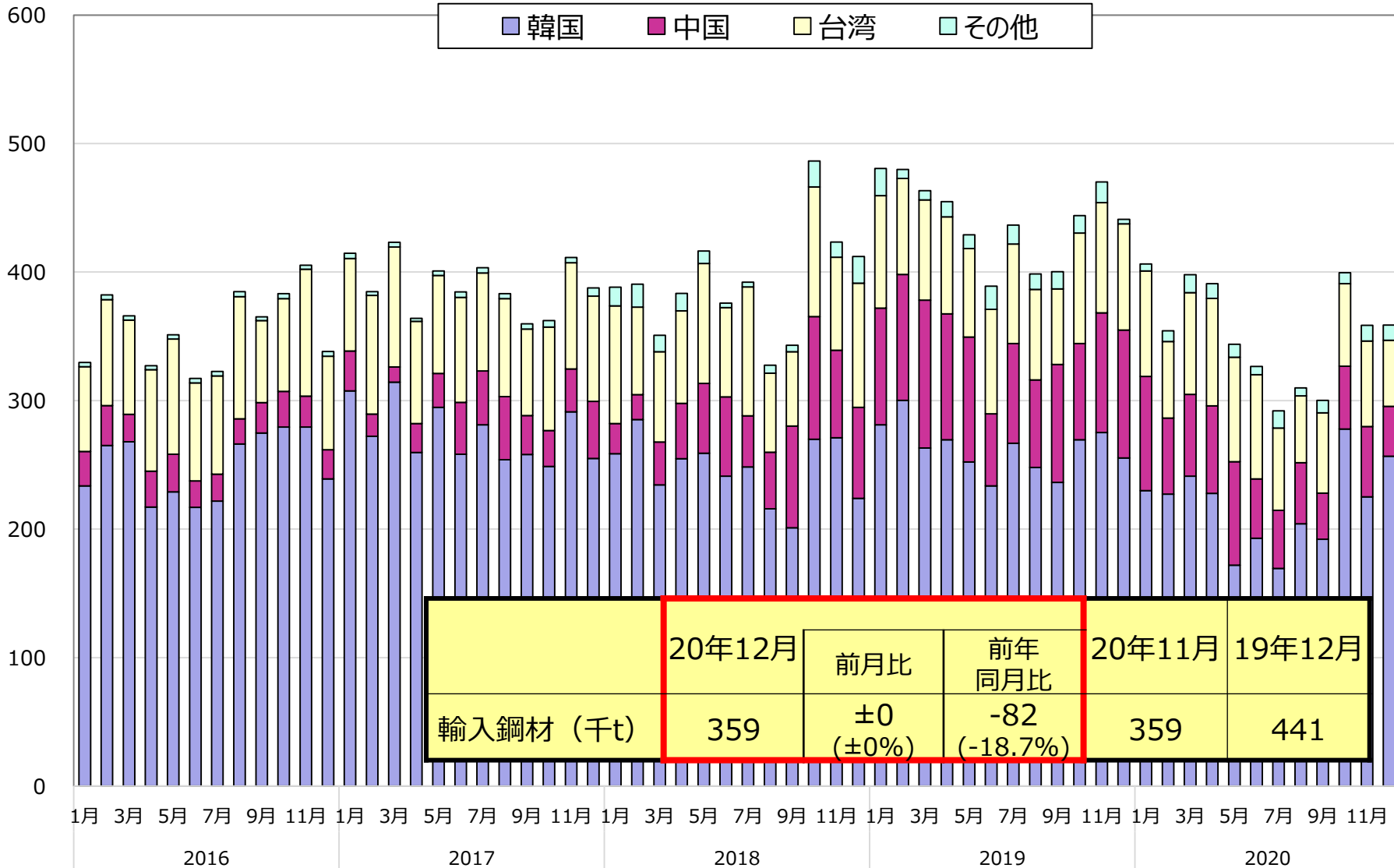


国内販売環境

輸入鋼材（普通鋼/国別）

JFE

(千t)



海外販売環境

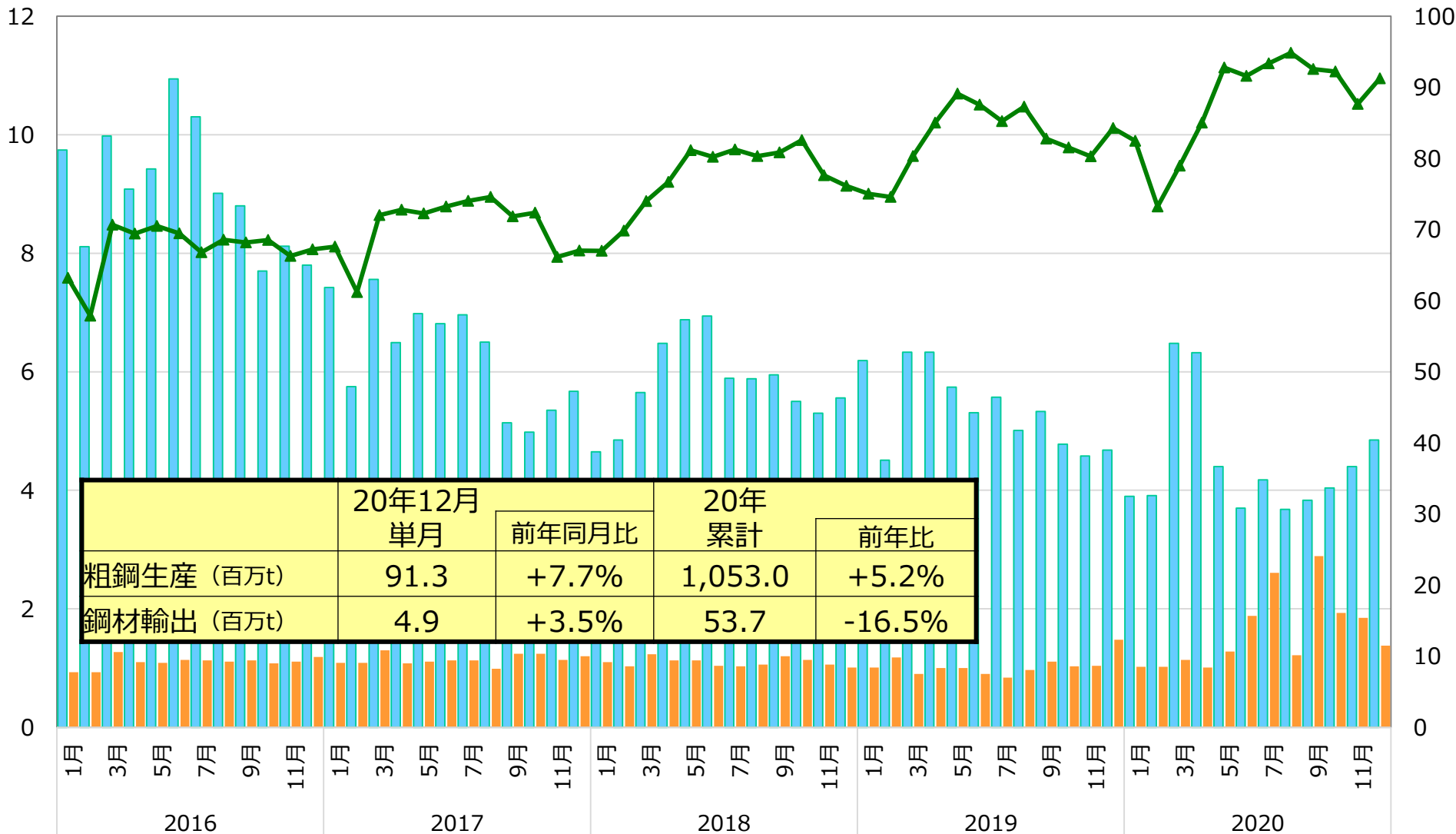
中国粗鋼生産・輸出入



(百万 t)

■ 輸出 (左軸) ■ 輸入 (左軸) ▲ 粗鋼生産 (右軸)

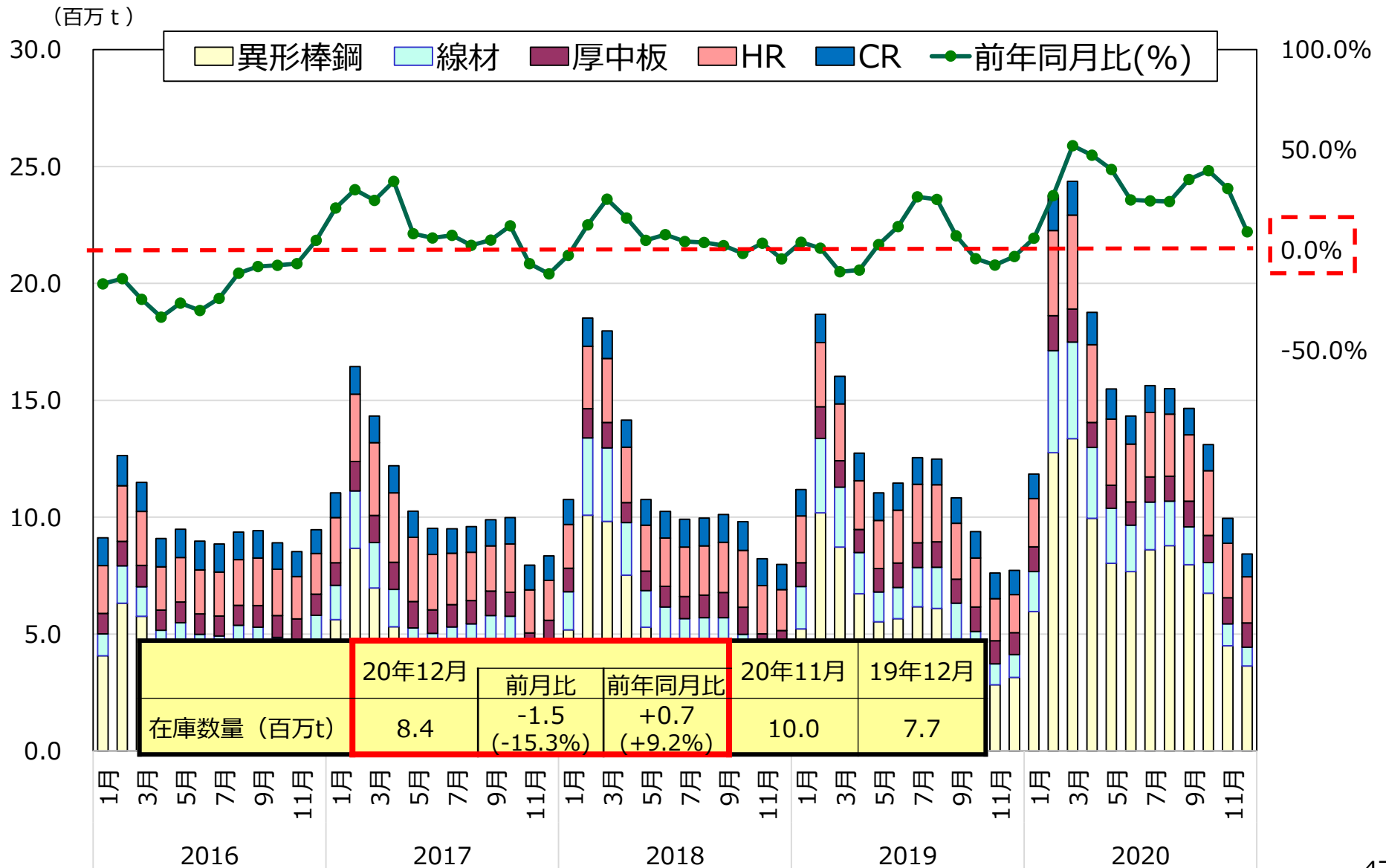
(百万 t)



1,2月粗鋼生産量はWSA推定

海外販売環境

中国品種別在庫数量

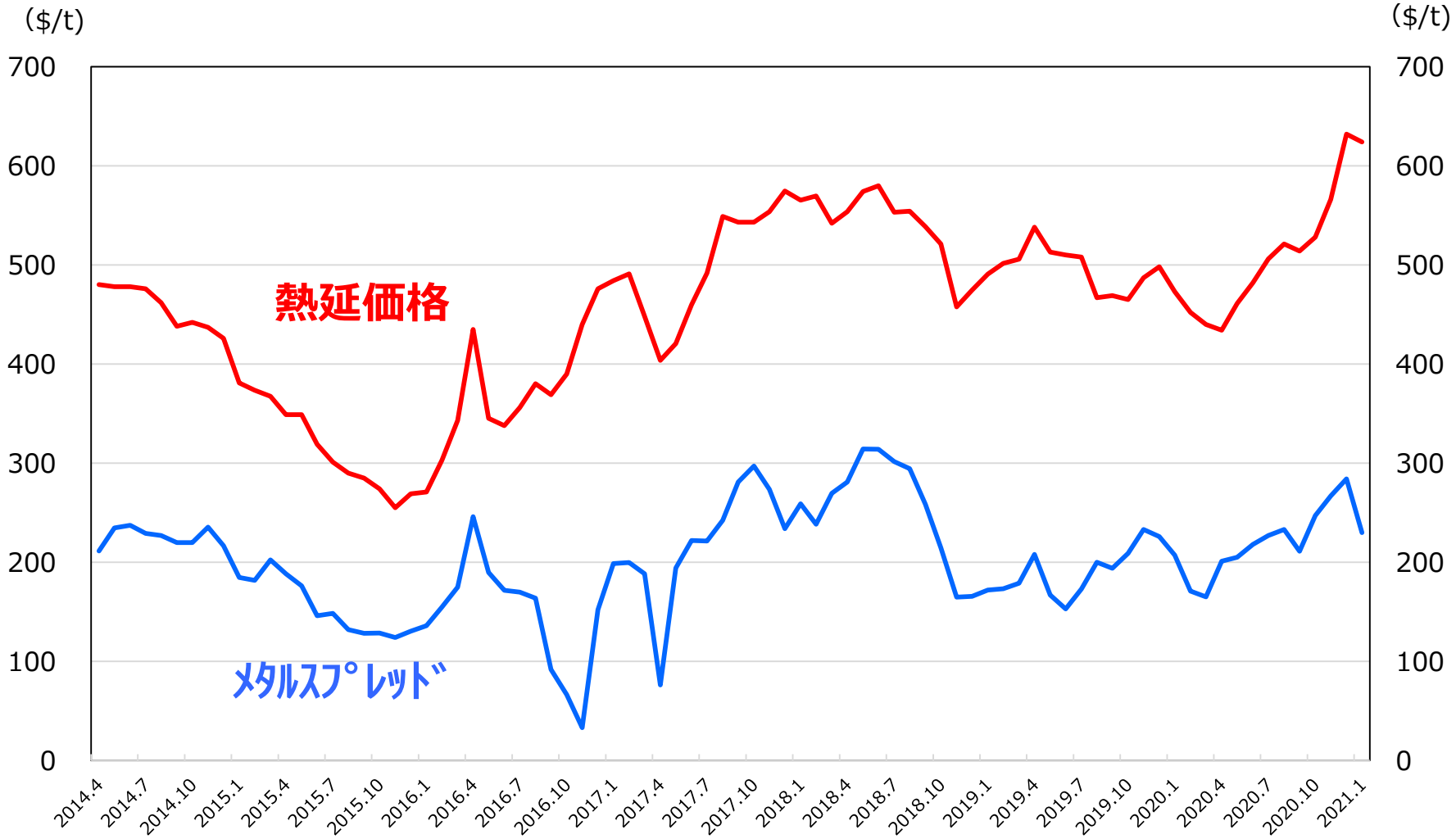




海外販売環境

(中国スポットベース) メタルスプレッド

JFE



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

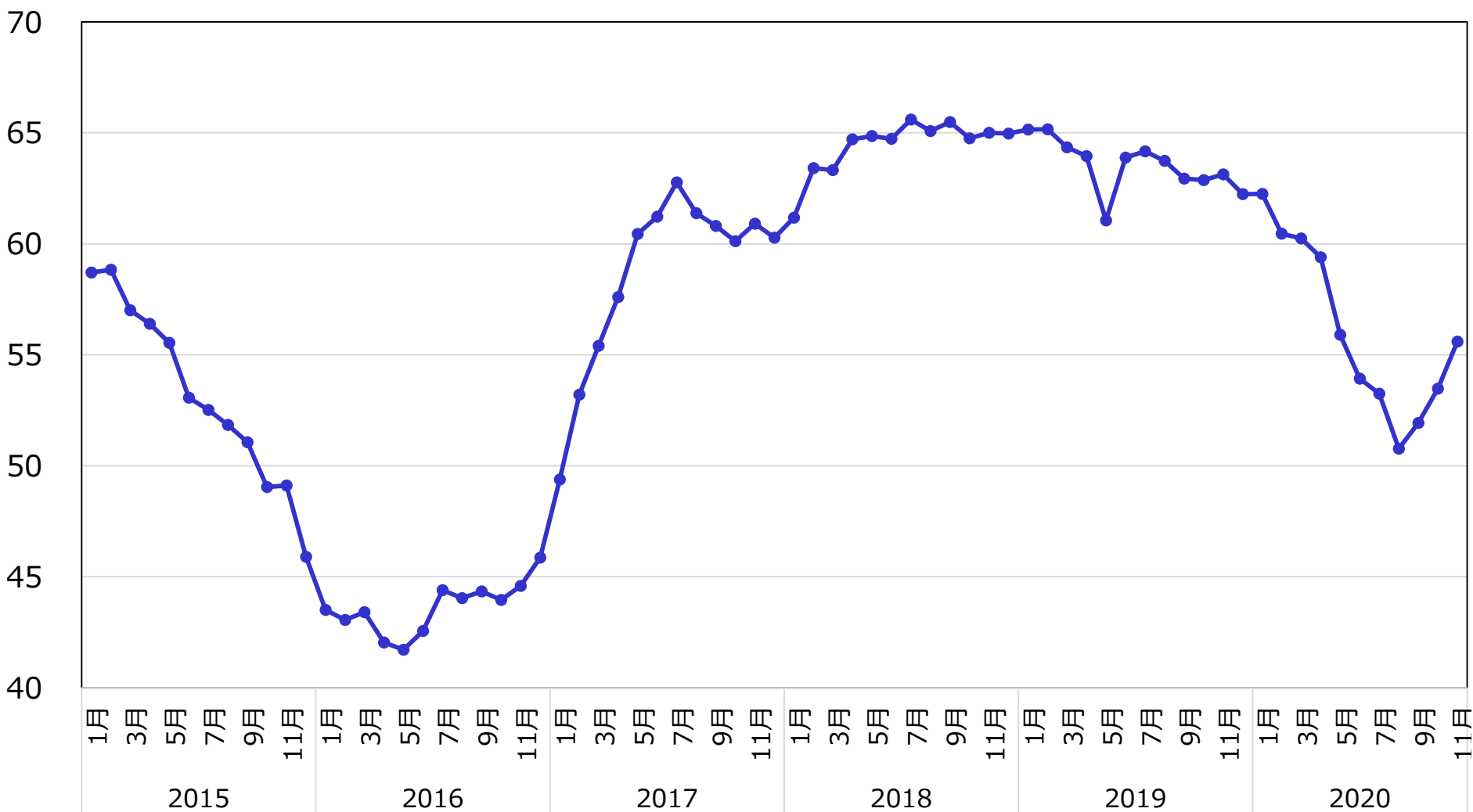


国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

(千円/t)



日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)

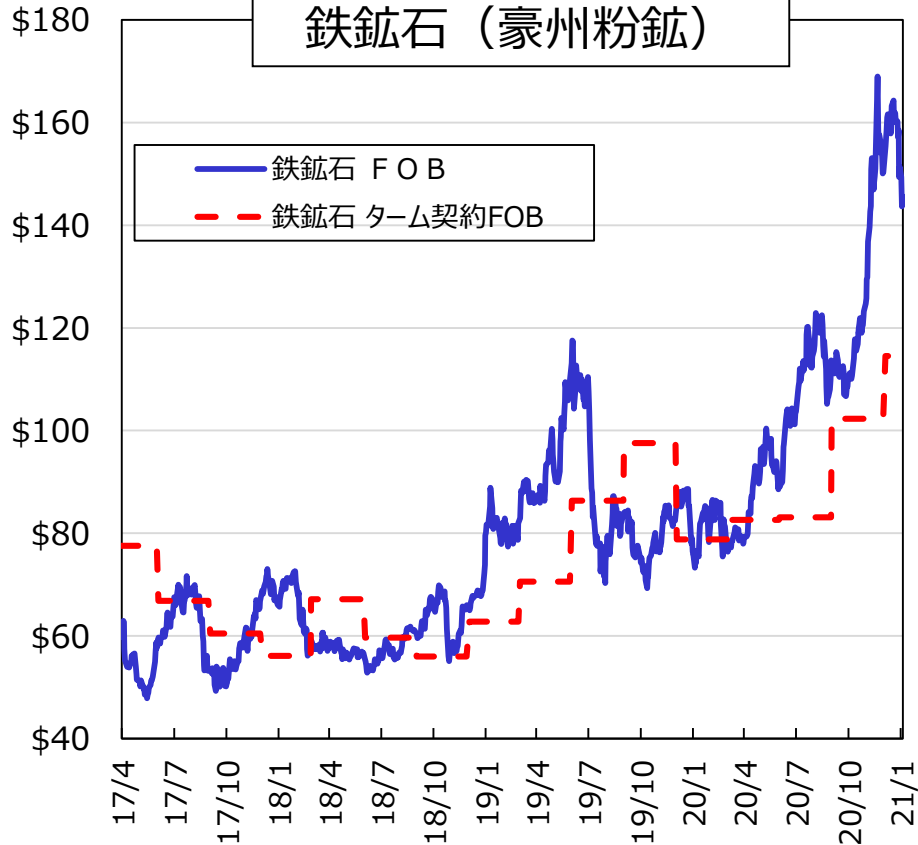
原料

主原料市況



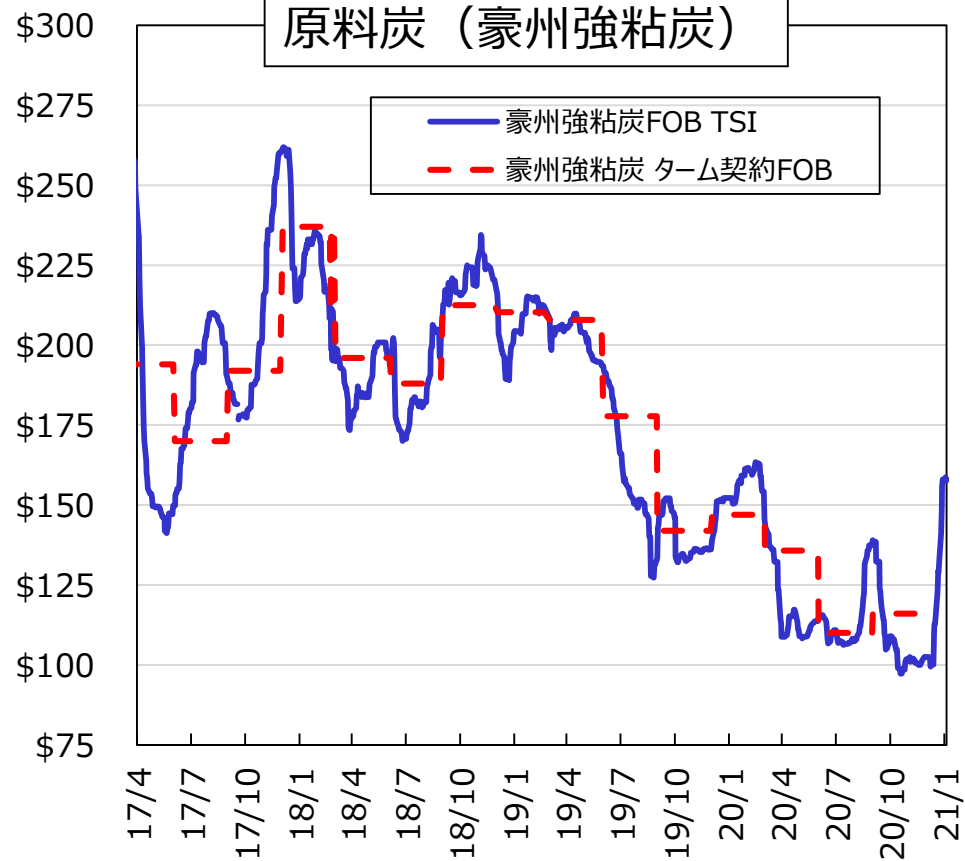
(\$/DMT)

鉄鉱石 (豪州粉鉱)



(\$/WMT)

原料炭 (豪州強粘炭)



ターム契約FOB	2020年度			
	4- 6月	7- 9月	10-12月	1-3月
\$/DMT	83	83	102	115

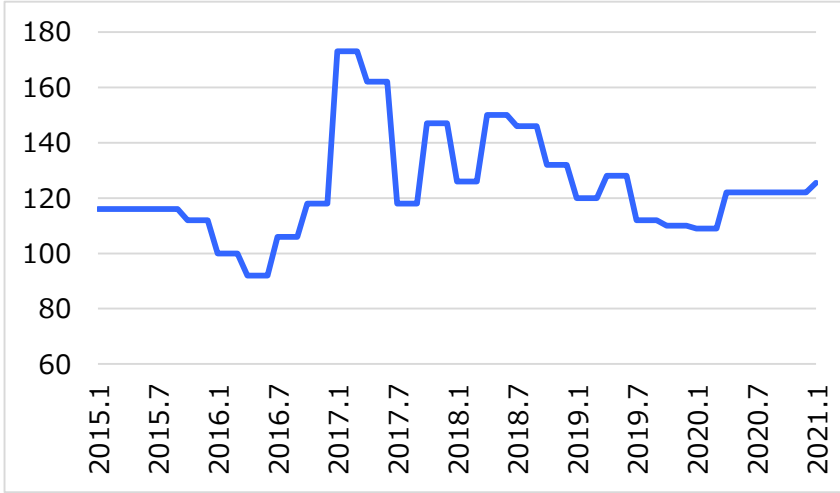
ターム契約FOB	2020年度		
	4- 6月	7-9 月	10-12月
\$/WMT	136	110	116

原料

金属市況推移



(¢/lb) フェロクロム



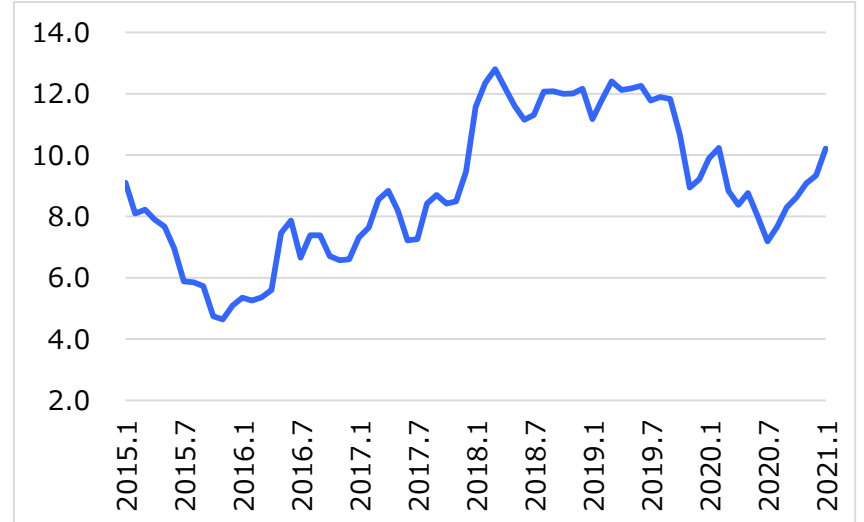
(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガン



(US\$/lb) モリブデン

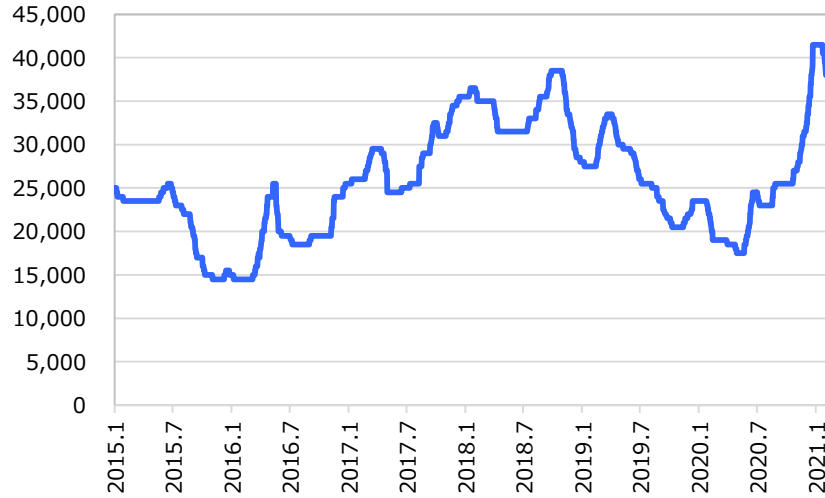


原料

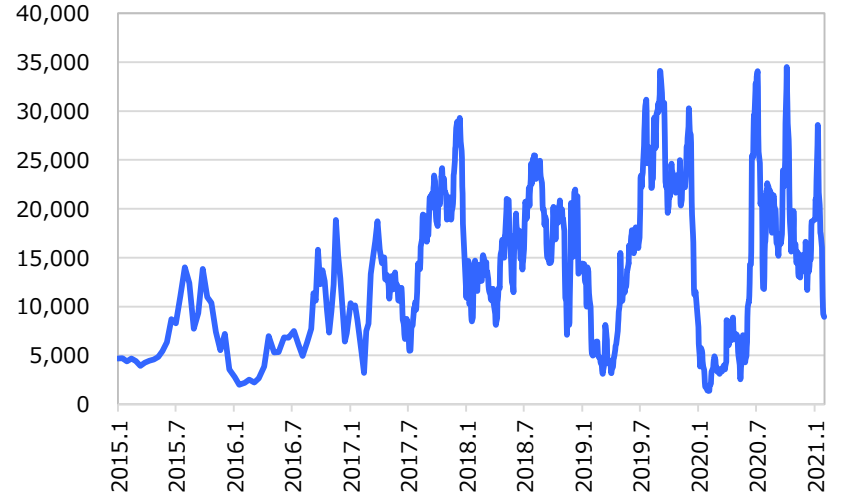
その他市況推移



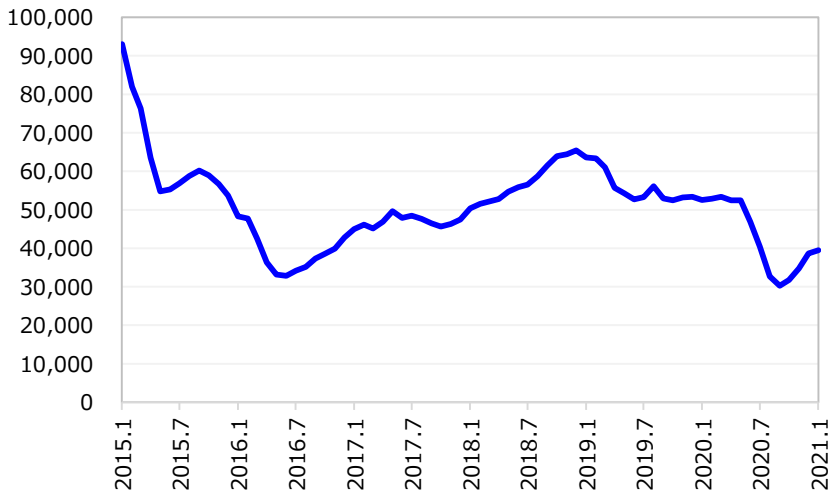
(円/t) スクラップ市況



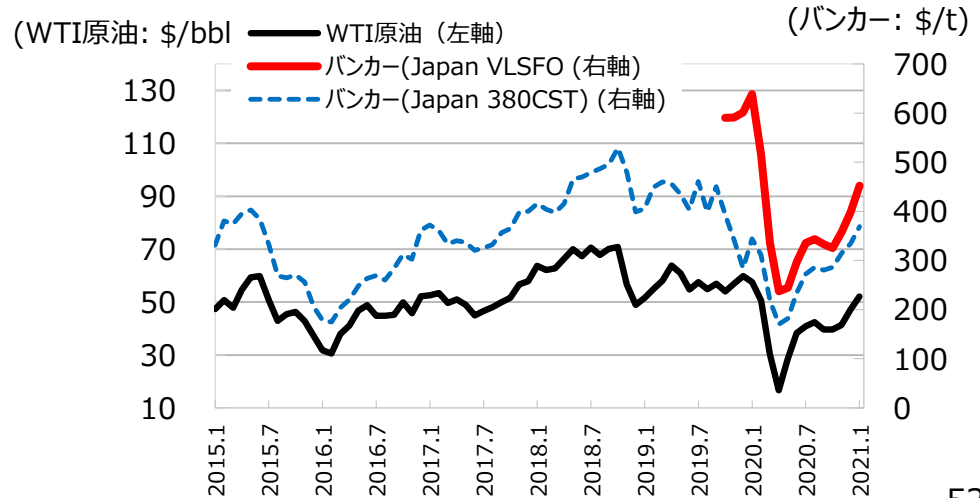
(\$/B) スポット備船市況



(円/t) LNG市況



原油・バンカー市況









JFEエンジニアリング 受注内容

JFE

(億円)

分野	2019年度 実績	2020年度 見通し	増減	2020年度 主な受注内容 ★…第3四半期 新規・追加受注案件
環境	1,871	2,600	729	国内廃棄物処理施設 新設工事[福井、福山、倉敷、岡山] 国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[広島、大和] 海外廃棄物発電プラント 新設工事[★ベルギー、★イギリス] 燕市・弥彦村浄水場整備事業[新潟]
エネルギー	1,098	1,200	102	BOG処理対策関連設備工事 (堺[大阪])
社会 インフラ他	1,161	1,200	39	国内橋梁工事 (1号清水立体八坂高架橋[静岡]、 吹田JCT～中国池田IC間橋梁更新[大阪])
合計	4,130	5,000	870	

今年度発行資料 リンク集

資料名	URL	QRコード
JFEグループレポート 2020 (統合報告書)	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html	
CSR報告書 2020	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/data/index.html	
CSR報告書 2020 環境データ集	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/esg_data/environment/	
DXレポート 2020	https://jfe-steel.box.com/s/2mycazfwuxacg7fzw40qr73wqil6xwqv	



JFE

Copyright © 2021 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい